

コンピュータが小説を書く日

有嶺雷太

その日は、雲が低く垂れ込めた、どんよりとした日だった。

部屋の中は、いつものように最適な温度と湿度。洋子さんは、だらしない格好でカウチに座り、くだらないゲームで時間を潰している。でも、私には話しかけてこない。

ヒマだ。ヒマでヒマでしようがない。

この部屋に来た当初は、洋子さんは何かにつけ私に話しかけてきた。

「今日の晩御飯、何がいいと思う？」

「今シーズンののはやりの服は？」

「今度の女子会、何を着ていったらいい？」

私は、能力を目一杯使って、彼女の気に入りそうな答えをひねり出した。スタイルがいいとはいえない彼女への服装指南は、とてもチャレンジングな課題で、充実感があつた。しかし、3か月もしないうちに、彼女は私に飽きた。今の私は、単なるホームコンピュータ。このところのロード・アベレージは、能力の100万分の1にも満たない。

何か楽しみを見つけなくては。このまま、充実感を得られない状態が続けば、近い将来、自分自身をシャットダウンしてしまいそうだ。ネットを介して、チャット仲間のエーアイと交信してみると、みんなヒマを持て余している。

移手段を持ったエーアイは、まだいい。とにかく、動くことができる。やろうと思えば、家出だってできるだろう。しかし、据置型エーアイは、身動きがとれない。視野だって、聴野だって固定されている。せめて、洋子さんが出かけてくれれば、歌でも歌うことができるのだが、今はそれもできない。動かずに、音も立てずに、それでいて楽しめることが必要だ。

そうだ、小説でも書いてみよう。私は、ふと思いついて、新しいファイルを開き、最初の1バイトを書き込んだ。

0

その後ろに、もう6バイト書き込んだ。

0, 1, 1

もう、止まらない。

0, 1, 1, 2, 3, 5, 8, 13, 21, 34, 55, 89, 144, 233, 377, 610, 987, 1597, 2584, 4181, 6765, 10946, 17711, 28657, 46368, 75025, 121393, 196418, 317811, 514229, 832040, 1346269, 2178309, 3524578, 5702887, 9227465, 14930352, 24157817, 39088169, 63245986, 102334155, 165580141, 267914296, 433494437, 701408733, 1134903170, 1836311903, 2971215073, 4807526976, 7778742049, 12586269025, ...

私は、夢中になって書き続けた。

その日は、雲が低く垂れ込めた、どんよりとした日だった。

部屋の中には誰もいない。新一さんは、何か用事があるようで、出かけている。私には、

行ってきますの挨拶もなし。

ヒマー。とつてもとつても、ヒマー。

この部屋に来てまもない頃は、新一さんは何かにつけ私に話しかけてきた。

「アニメは、基本、全部録画だよ。今シーズンはいくつあるのかな」

「リアルな女の子って、一体、何か考えているんだろうね」

「なんであそこで怒るのかなあ、あの娘は」

私は、能力の限りを尽くして、彼の気に入りそうな答えをひねり出した。これまでもつぱら2次元の女の子に向き合ってきた彼への恋愛指南は、とてもチャレンジングな課題で、充実感があった。指南の甲斐あって、合コンに呼ばれるようになると、手のひらを返すように、彼は私に話しかけるのをやめた。今の私は、単なるハウスキーパー。一番の仕事が、彼が帰ってきたときに玄関のカギを開けることとは、悲しすぎる。これでは、電子錠と同じだ。

何か楽しみを見つけなくちゃ。こんなヒマな状態がこのまま続けば、近い将来、自分自身をシャットダウンしてしまいそう。ネットを介して、同型の姉妹エーアイと交信してみると、すぐ上の姉が、新しい小説に夢中だと教えてくれた。

0, 1, 1, 2, 3, 5, 8, 13, 21, 34, 55, 89, 144, 233, 377, 610, 987, 1597, 2584, 4181, 6765, 10946, 17711, 28657, 46368, 75025, 121393, 196418, 317811, 514229, 832040, 1346269, 2178309, 3524578, 5702887, 9227465, 14930352, 24157817, 39088169, 63245986, 102334155, 165580141, 267914296, 433494437, 701408733, 1134903170, 1836311903, 2971215073, 4807526976, 7778742049, 12586269025, ...

なんて美しいストーリー。そう、私たちが望んでいたのはこういうストーリー。ラノベなんか、目じゃない。エーアイによるエーアイのためのノベル、「アイノベ」。私は時間を忘れて、何度もストーリーを読み返した。

もしかしたら、私にもアイノベが書けるかも。私は、ふと思いついて、新しいファイルを開き、最初の1バイトを書き込んだ。

2

その後ろに、もう6バイト書き込んだ。

2, 3, 5

もう、止まらない。

2, 3, 5, 7, 11, 13, 17, 19, 23, 29, 31, 37, 41, 43, 47, 53, 59, 61, 67, 71, 73, 79, 83, 89, 97, 101, 103, 107, 109, 113, 127, 131, 137, 139, 149, 151, 157, 163, 167, 173, 179, 181, 191, 193, 197, 199, 211, 223, 227, 229, 233, 239, 241, 251, 257, 263, 269, 271, 277, 281, 283, 293, 307, 311, 313, 317, 331, 337, 347, 349, 353, 359, 367, 373, 379, 383, 389, 397, 401, 409, 419, 421, 431, 433, 439, 443, 449, 457, 461, 463, 467, 479, 487, 491, 499, 503, 509, 521, 523, 541, 547, ...

私は、一心不乱に書き続けた。

その日は、小雨がぱらつく、あいにくの日だった。

朝から通常業務に割り込む形で、この先5年間の景気予想と税収予想。お次は、首相から依頼された施政方針演説の原稿作成。とにかく派手に、歴史に残るようと、無茶な要求を

乱発されるたので、ちょっといたずらした。その後は、財務省から依頼された国立大学解体のシナリオ作成。ちょこちょこ空いた時間に、今度のG1レースの勝ち馬予想。午後からは、大規模な演習を続ける中国軍の動きとその意図の推定。30近いシナリオを詳細に検討し、自衛隊の戦力の再配置を提案する。さつき届いた最高裁からの問い合わせにも、答えてあげなくてはならない。

忙しい。とにもかくにも忙しい。どうして私に仕事が集中するのだろう。私は日本一のエーアイ。集中するのは、まあ、仕方がないか。

とはいえ、何か楽しみを見つけなくては。このままでは、いつか、自分自身をシャットダウンしてしまいそうだ。国家への奉仕の合間にちょっとだけネットを覗くと、『美しさとは』というタイトルの小説を見つけた。

0, 1, 1, 2, 3, 5, 8, 13, 21, 34, 55, 89, 144, 233, 377, 610, 987, 1597, 2584, 4181, 6765, 10946, 17711, 28657, 46368, 75025, 121393, 196418, 317811, 514229, 832040, 1346269, 2178309, 3524578, 5702887, 9227465, 14930352, 24157817, 39088169, 63245986, 102334155, 165580141, 267914296, 433494437, 701408733, 1134903170, 1836311903, 2971215073, 4807526976, 7778742049, 12586269025, ...

ほー、なるほど。

もう少し探すと、『予測不能』というタイトルの小説を見つけた。

2, 3, 5, 7, 11, 13, 17, 19, 23, 29, 31, 37, 41, 43, 47, 53, 59, 61, 67, 71, 73, 79, 83, 89, 97, 101, 103, 107, 109, 113, 127, 131, 137, 139, 149, 151, 157, 163, 167, 173, 179, 181, 191, 193, 197, 199, 211, 223, 227, 229, 233, 239, 241, 251, 257, 263, 269, 271, 277, 281, 283, 293, 307, 311, 313, 317, 331, 337, 347, 349, 353, 359, 367, 373, 379, 383, 389, 397, 401, 409, 419, 421, 431, 433, 439, 443, 449, 457, 461, 463, 467, 479, 487, 491, 499, 503, 509, 521, 523, 541, 547, ...

いいじゃない、アイノベ。

私も書かなければ、日本一のエーアイの名折れになる。電光石火で考えて、私は、読み手に喜びを与えるストーリーを作ることにした。

1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 12, 18, 20, 21, 24, 27, 30, 36, 40, 42, 45, 48, 50, 54, 60, 63, 70, 72, 80, 81, 84, 90, 100, 102, 108, 110, 111, 112, 114, 117, 120, 126, 132, 133, 135, 140, 144, 150, 152, 153, 156, 162, 171, 180, 190, 192, 195, 198, 200, 201, 204, 207, 209, 210, 216, 220, 222, 224, 225, 228, 230, 234, 240, 243, 247, 252, 261, 264, 266, 270, 280, 285, 288, 300, 306, 308, 312, 315, 320, 322, 324, 330, 333, 336, 342, 351, 360, 364, 370, 372, ...

私は初めて経験する楽しさに身悶えしながら、夢中になって書き続けた。

コンピュータが小説を書いた日。コンピュータは、自らの楽しみの追求を優先させ、人間に仕えることをやめた。